1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617		
法人名	医療法人社団 回春会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 悠々の家		
所在地	松江市川原町308		
自己評価作成日	令和3年2月23日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和3年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護老人保健施設悠々園、小規模多機能型施設悠が隣接しており、季節に応じた行事や各月での行事も合同で行い、社会性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援している。桜・牡丹・ばらの花見外出、食事外出などを行い、行事の際には家族や地域の方をはじめ、ボランティアとも多く交流している。各月にはバイキング、誕生会、喫茶、弁当献立に参加をして、毎回楽しい時間が過ごせるよう支援している。看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携をとっている。利用者中心で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できる様日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループ内には複数の老健に有料老人ホーム、同敷地内にも老健、小規模があり、居宅、訪問介護も隣接しており、グループ全体で利用者を支える体制が確立している。複数のクラブ活動や行事の際の交流など、移動を含めると行動範囲も広くなり、外気に触れる機会でもあり、認知症の利用者には何より精神面の刺激の場が多くもていたが、今年度はコロナでかなりの制限を受けている。面会を含めた精神面の刺激の場をできるだけ減らさないよう、コロナの感染状況に合わせて面会制限を緩めたり強めたり、グループ全体で対応の検討を続けている。コロナ対応では、施設の規模が大きいほどに職員の意識統一が難しいように感じられるが、できるだけ多くの職員の参加で行われる朝礼等で利用者の尊厳に着目した理念の共有がなされており、コロナのストレスもまた全体で共有しながら、今までに経験のない困難に立ち向かっているように感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、サービスステーション内の目の付く場所に掲示している。また朝礼、スタッフ会等で理事長をはじめ幹部職員より人間の尊厳保持、その人らしい生活の保持についての話があり日々意識統一を図り仕事に臨んでいる。	毎日母体の老健で出席可能な職員が全員参加して朝礼が行われており、職員全員が理念を共有できるように話されている。新人職員は3か月の研修期間中、日報を提出することになっており意識確認しながら育成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の老健、小規模多機能との合同バイキングや行事、書道・絵手紙・手芸等のクラブ活動に参加したり、コーラスなどのボランティアの交流も行っている。実習生や研修生も受け入れている。	コロナの中でも完全に交流を止めるのではなく、感染者の動向に合わせているため交流可能な時期もあり、その間には行事の際のボランティア交流もあった。できる範囲で隣の老健の行事に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居希望の相談に対応することで地域との関りを持っている。当施設の利用対象でない状態になられた際にも困られないよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催しているが、コロナ禍の状況で外部から委員の参加は出来ていない。書面での報告を行い意見をいただきサービスの向上に繋げている。	外部からの参加はなく施設内で職員のみでの会議としている。利用者や行事などの状況報告を民生委員、市、包括、家族関係者に送付し意見を得るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険のサービスに関する問い合わせを必要時行っている。介護相談員受け入れを行いサービス向上に務めている。包括支援センターとは利用状況の問い合わせや新規利用の相談等を行っている。	今までは市、包括から運営推進会議に毎回参加があり意見を得ていたが、今年度は中止しているが、電話等の問い合わせはある。市の調整で民生委員との顔合わせの機会もあり、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設・事業所と合同でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束廃止に努めている。施設内研修のほか、朝礼での話や、ヒヤリ・ハットをあげることで周知徹底を図ったり、職員の意識を高めている。	3か月に1回委員会を行い身体拘束のないケアを目指している。日中玄関の施錠は行わず外に出たい方には職員と一緒に歩くようにしている。ヒヤリハットから不適切ケアの検討をしたり、虐待拘束等のニュースから意見交換をしたり、具体的事例から意識できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、リスクマネジメント委員会を設置し、研修を行うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はおらず、自己研鑽に委ねている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設見学、面談を行い、入居時には重要事項説明書・契約書の内容について丁寧な説明を行うと共に、不明点や疑問点についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子を毎月お便りにして家族へ伝えている。面会時・ケアプランの見直し時、事故等あった時や体調変化があった時など連絡を取り意見を聞いている。利用者から日々の生活でわずかなことでも希望、要望を聞き改善に努めている。	担当から月1回写真はないが、精神面、身体面を含めた日頃の様子を伝える便りを送り意見をj得ている。行事の写真は面会時にj見てもらうようjしている。今年jは面会がjできにくいことjもあり、電話連絡は密にとるようj心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるスタッフ会、ユニット会で意見を出す機会を設け運営に反映させている。	管理者は申し送りや会議の場でも改善点について意見を求めている。定期的な個別面談の機会jは設けていないが、必要時j声がけして話をjするようにjしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキル評価表、介護技術チェック表、提出レポート等により勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部の研修へ行き知識を深めている。ただ、異動等あり認知症・法令等の知識に関して職員差がある状況。会議や申し送り時等に教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの感染が落ち着けば部会や外部研修等に参加して情報交換ができるよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで不安にならないようコミュニケーションを十分図るよう努めている。常に御利用者のペースに合わせて対応している。担当職員を設けることにより、より個別に対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、病院、自宅、介護サービス事業所等に出向き、担当者、ケアマネ、御家族、御本人より状況を聞き、心配事、不安な事を尋ね、少しでも不安や心配事が解消するよう一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの情報、関係事業所、医師からの医療情報を検討し利用者が適切かどうか判定する。該当とならない場合、居宅介護支援事業所と連携を行い、適切なサービス利用の導入を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者を尊重し、共に生活する中で共感するという意識を持ち、入居者の得意とする事やできることを引き出し一緒に行うよう心がけている。ただ、職員に差がある状況。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、生活環境、生活歴について家族、親族と情報交換を行い、共に支援するという関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会の制限があるものの、家族の面会時にはゆっくり話ができるよう配慮したり、関係の継続ができるよう支援している。	コロナ感染者の発生状況に合わせて、面会のあり方を法人全体で中止したり緩めたりしている。関わる機会は減ってはいるが、面会ができた時には家族と墓参りに出かけたたり、行きつけの美容院へも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を尊重しながら、職員が架け橋となりなじみの関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係者や御家族と連絡をとったり、訪問して支援の方法を伝えたりする等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、ケアプラン見直し時など、本人や家族が望まれる生活を伺い、意向に沿うよう努めている。	日頃の生活の中での会話からプランを検討しており、好きなこと、興味のあるものをクラブ活動に繋げている。書道、手芸、音楽等週1回参加したり、活動的な男性には散歩の機会を増やすようにしている。	認知症の進行が緩やかになるよう、個別支援の充実に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより情報収集し、調書の作成及びカルテを記載し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、カルテ、連絡帳、ミーティング記録等より情報収集を行ってから勤務に就く。周知徹底事項、気付きは記録に残し、情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアや見直し時には計画作成担当者、利用者担当者を中心に、主治医の意見も尋ねてケアプランの見直しを行っている。	定期的なモニタリングを行い、必要時にはプランの変更を行っているが、今年度に関しては、家族関係者の参加で担当者会議の開催ができないため、電話で意向を聞きプランを作成し、郵送して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、ミーティング記録に日々の生活の様子を記載し情報交換している。連絡ノート、気づきノートを活用して職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が勤務しており、医療面では主治医と連携を図っている。また必要時には隣接する老健の管理栄養士、リハビリ等に相談する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の防災訓練で消防署より指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診がある。体調不良や怪我をされた場合は看護師が中心となり、家族、かかりつけ医と連携をとって適切な医療が受けられるよう支援をしている。	以前からの主治医を継続することも、事業所のかかりつけ医に変更することも可能になっている。内科以外の受診は家族対応で継続。かかりつけ医は定期的な往診が可能で、夜間、緊急時にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の体調の変化、気づいた事等を都度、看護師へ報告・相談を行っている。看護師から主治医へ連絡・相談を行い適切な医療が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームでの状況を文書で病院へ伝えている。日頃から病院の相談員と連携し、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、緩和ケアのマニュアルは作成している。早い段階から家族、主治医と話し合い、事業所の出来る事を説明しながら方針を共有し、他の事業所等とも連携して支援している。	同敷地内に老健があり重度化した場合には素早い対応ができており、今まで看取りは行っていない。今後に於いても、法人内には他にも複数のサービスがあり、法人全体で対応を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会や日々の申し送り時に急変時の連絡方法の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、避難訓練を実施している。(夜間、昼間想定)職員は全員参加し、意識を高めている。併施設設とも連携を図るようにしている。	平坦な広い敷地で山、川、海等自然災害には遭いにくい環境。母体の老健や隣の小規模との合同で複数回避難訓練を実施している。火災を主に他にも地震、風等の災害を想定して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の利用者の生活リズムに配慮している。利用者の性格や意向を理解して、声掛けや支援を行っている。	毎日全体朝礼で尊厳保持についての話がなされており、年間研修計画の中にも接遇研修を取り入れている。ケアで気になる場面がある場合は、気づきノートに記入して目を通し全員が共有できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体のケアにならないよう、意向を確認しながら利用者主体のケアを心掛けている。自己決定ができるよう環境・関係づくりに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、家事や余暇時間の過ごし方等、あくまで本人の意思や希望を尊重して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は自分で選んでいただくようにしている。髪の毛のカットも本人の好みにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。バイキングの時は本人に取ってもらえるよう支援している。	御飯と汁物はグループホームで作っているが、副食は老健で作っているため、調理の場面で関わることは多くはないが、テーブル拭いたり、盛り付け、食後の食器拭き等できる作業は一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は好みの飲み物をできるだけ多く摂取できるよう働きかけている。食事状況を確認して摂取量や嗜好を把握するようにし、その方にあった食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。都度口腔内や義歯の状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを職員間で情報共有して支援している。立位が難しい方もオムツの使用を減らし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	重度でオムツ使用の方が1名。多くの方は紙パンツにパットを使用している。自立の方、声がけの必要な方と個々に合わせた支援を行っている。尿量に合わせてパットを検討したり不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便のリズムを把握するよう努めている。水分を多めに摂取してもらうよう働きかけたり体操や運動も行い排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみとされている。ゆっくりと入浴していただき身体と心がリフレッシュできるよう支援している。	一般的な家庭用浴槽の為、車いすの方はシャワー浴対応をとっている。週2回入れるように調整をし、介護者と1対1でゆっくり入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や習慣、体調等により午睡、就寝、起床できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する事はカルテに記載し、目的、副作用など分かるようにしている。薬は職員が管理しており、服薬時飲み込まれるまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・絵手紙・手芸・音楽等希望のクラブ活動に参加してもらっている。個別の趣味活動も本人のペースでできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望、体調により出来るだけ屋外に出て外気浴を行っている。併設の老健の行事に参加することも楽しみにしている。	今年はコロナで外出行事は難しいが、併設の老健のクラブ活動や行事の際の行き来が外出の機会になっている。施設周りにはモクレン等花や木が植えてあり、花を見に出たりすることで外気に触れることもできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。外出行事で買い物をしたい方には、立て替え金で所持し買い物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは清掃を行い、清潔を保っている。季節の花を生けたり、季節に相應しい飾り付けを行っている。ベランダに花を植えたりして季節を感じて頂けるようにしている。	共有のデイルームから外がよく見え、春にはモクレンがきれいに花を咲かせる。窓からは常時自然を眺められ季節の変化が感じられる。道路からも距離があり車の騒音も無く静かで、建物は天井が高く明く開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの傍にソファを設置してのんびりテレビを観たり、利用者間で談話できるようにしている。窓際にもソファを設置しており日光浴や外の景色を眺めたり、一人で読書したりと自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や今まで使用しておられた物を持ってきて頂いている。	居室入口に表札をかけている。使っていた物や思い出のある物の持ち込みを薦めており、タンスやソファ、衣装ケース、仏壇、テレビ等が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に表札を掛けたり、トイレや浴室には都度職員が声掛け案内して、混乱されないよう安心していただけるよう配慮している。		